

まちひとしごと

Vol. 25

一般社団法人 倶知安観光協会
ラミレズ 麻衣 さん

人の輪を広げ、まちの良さを知り 多くの人に伝えたい



倶 知安駅前通り、まちの駅『ぶらっと』内にある倶知安観光協会で、今年7月から働くラミレズ麻衣さん。

彼女は、札幌市に生まれ、高校までを過ごし、京都の大学に進学。国際協力に興味を持ち、卒業後は青年海外協力隊として活動した。その期間中に結婚。帰国後は、夫の函館市での就職に伴い、道南で求職をし、平成26年4月から今年6月まで、北海道新幹線の駅がある北斗市の観光協会スタッフとして、約4年間働いてきた。

「北斗市では、新幹線駅の開業に向けた準備期間から開業後にかけて、まちが大きな盛り上がりを見せる中で、地元観光協会のスタッフと

して働いたことが、貴重な経験になりました」

北斗市観光協会では観光に関する仕事の経験を積む中で、次第に彼女は、これまでとは異なる環境の中で、同様の仕事に挑戦してみたい。と考えるようになり、昨年の冬に倶知安町のスキー場を訪れた。

「子どもの頃に、家族で訪れたことはあったものの、その頃とは周辺の町並みも大きく変わっており、外国人観光客の多さと、その盛り上がりを目の当たりにしたときに、観光の仕事をするならこの町で。と考えました」

その後、倶知安への移住を決意。家族の理解もあり、倶知安に暮らし始めて約1カ月が経った。彼女には現在、1歳の息子がおり、仕事に子育てと、忙しい日々を送っている。

「倶知安は他の自治体に比べ、多くの外国人が暮らしており、そのような多様性のある環境で育つことは、子どもの成長過程にとって非常に価値のあることと考えており、そのことも、この町への移住を後押ししました」

8月に入ってから、初めての『くつちゃんじゃが祭り』を家族で楽しんだという。

「子どもから大人まで、参加型のイベントが多く、また町の顔ともいえる駅前通りを使つての規模の大きさと、訪れる人の多さに驚きました」

また、人材不足が叫ばれる中、いくつものイベントを運営し、来場者を楽しませようとする町の人たちの懸命な姿を目にし、彼女はこの町の観光における、さらなる可能性を感じた。

「スキー場周辺が観光地としての最先端を行く中で、昔からの倶知安らしさが良い意味で残る、市街地の魅力を再認識しました」

観光協会の事務所がスキー場周辺ではなく市街地にある意味を改めて感じたという彼女は、今後、市街地を含め、倶知安町全体の観光地としての認知度を、道内・国内においても高めていきたいと話した。

「町の良さを多くの人に知ってもらうためにも、仕事はもちろん日々の生活の中で、多くの町の人と積極的に関わっていききたいと考えています」

取材の中で、これからもっと町のことを知りたいと彼女は話していた。町の人との輪を広げることが、その第一歩となり、これからの活躍に繋がっていくだろう。